

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

マナック株式会社 福山工場

(2) 事業所の所在地

広島県福山市箕沖町92番地

(3) 業種

1699 他に分類されない化学工業製品製造業

(4) 事業所位置図

別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、令和元年度（2019年度）を基準年度とし、令和2年度（2020年度）から令和4年度（2022年度）までの3年間とする。

※ 省エネ法第15条関係中長期計画書の計画期間と同じ

3 計画の基本的な方向

「マナック環境方針」より

当社は温暖な気候に恵まれた瀬戸内の地に創業し、今日まで企業活動を展開してきました。この恵まれた環境を守ることも企業の使命の1つであると認識しています。

当社の事業は、常に化学物質と向き合っています。化学物質は、その取扱いを一步誤ると、危険で有害なものであり、地球温暖化や環境汚染のもととして危惧されています。しかし適切な管理下に取り扱えばその用途は格段に広がります。

当社は、化学物質の有益性を生かしうるために、様々な場面において、環境への影響や、その対策を考えて行動し、社会の進化・発展に貢献するとともに、「地球環境・人間社会に信頼と安全・安心・感動を発信する会社」を目指します。

1. 地球温暖化や環境汚染の防止を念頭においた事業活動に努めます。
2. 活動の各段階において、大気への排出の抑制、廃棄物の削減、省エネルギーに取り組みます。
3. 全従業員に対して積極的な教育・訓練を実施し、環境に対する意識と知識の向上を図り、汚染の予防に努めます。
4. 環境保全に関する各種法令・協定等を理解し、順守します。
5. 環境マネジメントシステムを効果的に運用し、定期的にレビューを実施すると共に、継続的改善を図ります。

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	令和元年	年度
二酸化炭素	10,217	

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	令和元年	年度
二酸化炭素	7	

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	令和元年	年度
メタン	5	
一酸化二窒素	3	
その他 温室効果 ガス (HFC PFC SF6 NF3)		

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (令和元年度)	削減目標		目標年度 (令和 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂				0
非エネルギー起源CO ₂				0
メタン				0
一酸化二窒素				0
その他 温室効果ガス				0
温室効果ガス 実排出量総計				0
温室効果ガス みなし排出量		-		0
目標設定の考え方				

※ 削減率 (b) = (c) / (a) × 100 削減量 (c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

年度生産量 (エネルギー負荷補正)、千t

単位：排出量 (t-CO₂)，原単位量 (千t)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (令和元年度)			原単位 削減目標	目標年度 (令和4年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂	10,217	12.002	851.3	3.0	11,075	13.407	826.1
非エネルギー起源CO ₂	7				7		
メタン	5				5		
一酸化二窒素	3				3		
その他 温室効果ガス	0				0		
総排出量	10,234	12.002	852.7	3.0	11,090	13.407	827.2
エネルギー消費原単位 (原油換算 k l)	-	-	363.3	3.0	-	-	352.4
目標設定の考え方	1. エネルギー起源CO ₂ の原単位数量は生産計画により見込 2. エネルギー消費原単位として年平均1%の削減を目標 3. その他の項目はほぼ変化がないとする						

※ 削減率 (d) = { (c) - (g) } / (c) × 100 原単位 (c) = (a) / (b) 原単位見込 (g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項 目	数値目標	具体的な取組み
1	燃料起因CO ₂ 発生削減	・燃料の使用によるCO ₂ 発生 原単位を3%以上改善	<ul style="list-style-type: none"> ・蒸気配管の整備 ・トラップの整備、改善 ・保温断熱強化 ・廃熱の回収利用を検討
2	電気使用によるCO ₂ 発生 削減	・電気の使用によるCO ₂ 発生 原単位を3%以上改善	<ul style="list-style-type: none"> ・高効率機器への更新 ・省エネ型電気機器への更新 ・インバーター制御への変更 ・圧力空気ロスの防止 ・冷暖房温度の適正管理 ・不要電源OFFの徹底 ・遮熱等による冷熱負荷の軽減
3			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種 類	合計量
1		
2		
3		

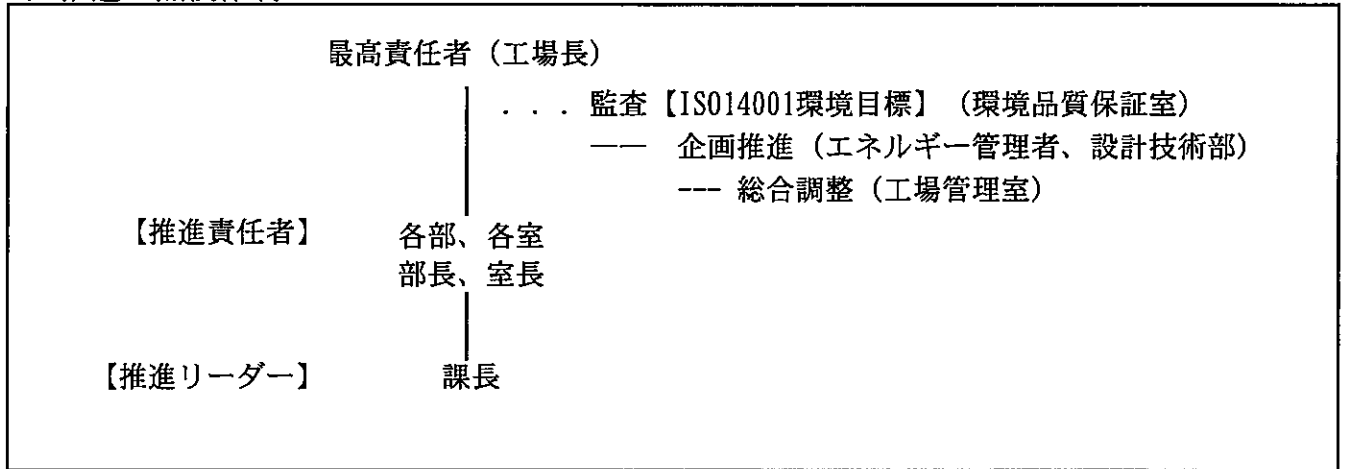
○ その他の取組み

	項 目	数値目標	具体的な取組み
1	廃棄物発生量の削減	発生計画量の3%削減 (各年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・溶剤のリサイクル、リユース ・使用水量低減（工程改善） ・両面コピー、電子文書 ・分別、資源化の徹底 ・容器リユースの推進
2	大気排出の抑制	回収率95%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・工程密閉化の推進 ・温度管理の徹底 ・冷却能力の向上
3	その他		<ul style="list-style-type: none"> ・工場周辺の清掃活動（月2回） ・工場緑化の推進 ・クールビズ、ウォームビズの推進

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

設計技術部を中心として省エネ対策 (=温室効果ガス削減対策) に取組み、状況はISO14001環境目標の推進としてISO推進委員会で報告される。推進状況は環境会議において定期的に評価・見直し等を行い、継続的に向上を図る。

(3) 計画書等の公表

事業所に備え付けて閲覧する